

News Release



令和8年7月13日

各報道機関文教担当記者 様

金沢大学 古代文明・文化資源学フォーラム2026 日本と世界の人類史研究の最前線を紹介

金沢大学古代文明・文化資源学研究所は、人類の過去を巡る多彩な調査研究プロジェクトの最新情報を紹介する「いにしえの世界を探る 金沢大学 古代文明・文化資源学フォーラム2026」を開催します。

私たち人類の歴史は、先史時代から近代・現代、そして新旧の大陸をまたぐ世界の各地に至るまで、時空間的に広がっています。本フォーラムは、歴史の広がりを感じるとともに、考古学・考古科学・文化資源学の最前線に触れる絶好の機会となります。また、令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨による被災文化財の記録保存に係る活動や研究の最新情報についても報告します。

ついては、事前および当日の取材・報道をよろしくお願いします。

いにしえの世界を探る 金沢大学 古代文明・文化資源学フォーラム2026

日 時： 令和8年7月20日（月・祝）10：30～16：00（10：00開場）
場 所： 金沢市文化ホール 3階 大会議室（金沢市高岡町15-1）
対 象： どなたでも参加可能（入場無料・事前申し込み不要、先着順100名まで）
内 容： ※主なプログラム、詳細は添付チラシのとおり

【本件照会先】

金沢大学古代文明・文化資源学研究所
准教授 佐々木 由香

TEL：076-264-5583

Email：yuka_sasaki@staff.kanazawa-u.ac.jp

【広報担当】

金沢大学人間社会系事務部総務課総務担当
樫田 恵里

TEL：076-264-4156

Email：n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp



中米のメソアメリカ文明世界遺産と文化資源を訪ねて



輪島市・南惣家文書からひもとく能登の歴史

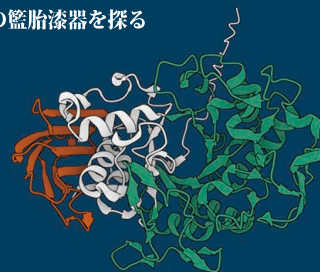


移動前提社会における移動実態とこれからの展望

いにしえの 世界を探る

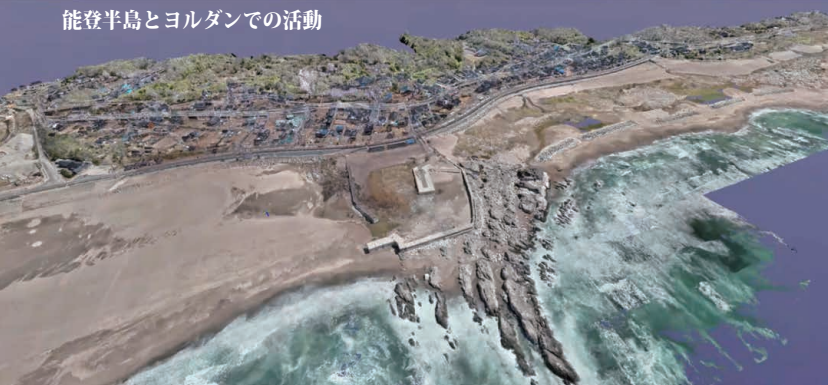


縄文時代の籃胎漆器を探る

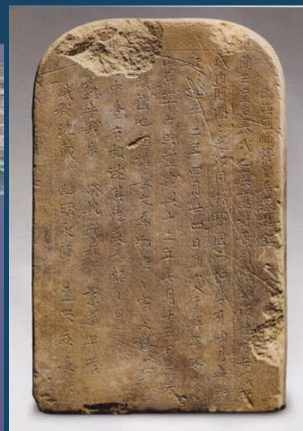


高深度古代人ゲノム解析から見えること

能登半島とヨルダンでの活動



中国龍頭山墳墓群
(渤海王室墓地)
発掘報告書の解析



メソポタミア文明の源流をたどる

金沢大学 古代文明・文化資源学フォーラム 2026

2026年 7月 20日 (月・祝) 10:30 - 16:00

金沢市文化ホール 3階・大会議室 (10:00 開場)

石川県金沢市高岡町 15-1 金沢駅東口よりバス約 10 分「南町・尾山神社」下車 徒歩 3 分

主催／金沢大学 古代文明・文化資源学研究所 <https://isac.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



くわしくはこちら

対面形式

先着順にて
100 名様まで
入場可

申込不要

左記の会場に
直接お越し
下さい

参加無料

中高生・学生
一般の方
対象



科研費
KAKENHI

いにしえの 世界を探る



金沢大学 古代文明・文化資源学フォーラム 2026

金沢大学は古代文明・文化資源学研究所を組織し、私たち人類の過去をめぐる多彩な調査研究プロジェクトを活発に展開しています。そのねらいの時空間的な広がり、文明誕生よりも古く遡る先史時代から近代・現代にいたるまで、そして日本列島のみならず新旧の大陸をまたぐ世界の各地にまで及びます。こうした活動の最新情報を中高生・学生・一般のみなさまにご紹介するため、今夏も恒例の公開フォーラムを開催する運びとなりました。考古学・考古科学・文化資源学の糾合を目指して金沢大学が取り組んでいる、先端研究の最前線にふれてみてください。

プログラム

報告の要旨は研究所ウェブサイトに掲載しています
<https://isac.w3.kanazawa-u.ac.jp/event/event20260720.html> ⇒



- 10:30-10:35 開会挨拶
- 10:35-11:05 報告① 小高 敬寛（金沢大学国際基幹教育院 准教授）
メソポタミア文明の源流をたどる —イラク、シャイフ・マリフ遺跡の発掘調査
- 11:05-11:35 報告② 松永 篤知（金沢大学資料館 特任助教）・小川 雅洋（公立小松大学次世代考古学研究センター 特任助教）
中米のマヤ文明世界遺産と文化資源を訪ねて —公立小松大学との共同実習実施報告 2025
- 11:35-12:05 報告③ 古畑 徹（金沢大学人間社会研究域 特任教授）
中国龍頭山墳墓群（渤海王室墓地）発掘報告書の解析 —「順穆皇后墓誌」「孝懿皇后墓誌」釈文を中心に
- 12:05-13:15 昼食
- 13:15-13:45 報告④ 石谷 孔司（金沢大学医薬保健研究域附属サピエンス進化医学研究センター 助教）
高深度古代人ゲノム解析から見えること —食性への適応進化と集団動態史を探る
- 13:45-14:15 報告⑤ 佐々木 由香（金沢大学古代文明・文化資源学研究所 准教授）
西内 巧（金沢大学疾患モデル総合研究センター 准教授）
縄文時代の監胎漆器を探る —自然科学分析による製作技法の「見える化」
- 14:15-14:45 報告⑥ 足立 拓朗（金沢大学古代文明・文化資源学研究所 副所長／教授）
藤井 純夫（金沢大学古代文明・文化資源学研究所 客員教授）
張替 清司（輪島市教育委員会／古代文明・文化資源学研究所客員研究員）
能登半島とヨルダンでの活動 —文化資源学による地域・国際社会への貢献
- 14:45-14:55 休憩
- 14:55-15:25 報告⑦ 上田 長生（金沢大学人間社会研究域 教授）
輪島市・南惣家文書からひもとく能登の歴史 —近代名望家としての役割を中心に
- 15:25-15:55 報告⑧ 川澄 厚志（金沢大学融合研究域 准教授）
移動前提社会における移動実態とこれからの展望 —移動者による新たなコミュニティの形成プロセス
- 15:55-16:00 閉会挨拶

日時／2026年7月20日（月・祝）10:30－16:00（10:00 開場）

会場／金沢市文化ホール 3階・大会議室（石川県金沢市高岡町 15-1）

対面形式のみでの開催になります（オンライン配信などの予定はございません）。

申込は不要です。直接、会場までお越しください（先着順にて100名様まで入場できます）。

来場者用の駐車場はございませんので、なるべくバスなどの公共交通機関をご利用ください。

主催／金沢大学 古代文明・文化資源学研究所 <https://isac.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



研究所の最新情報を
SNSで発信中！

